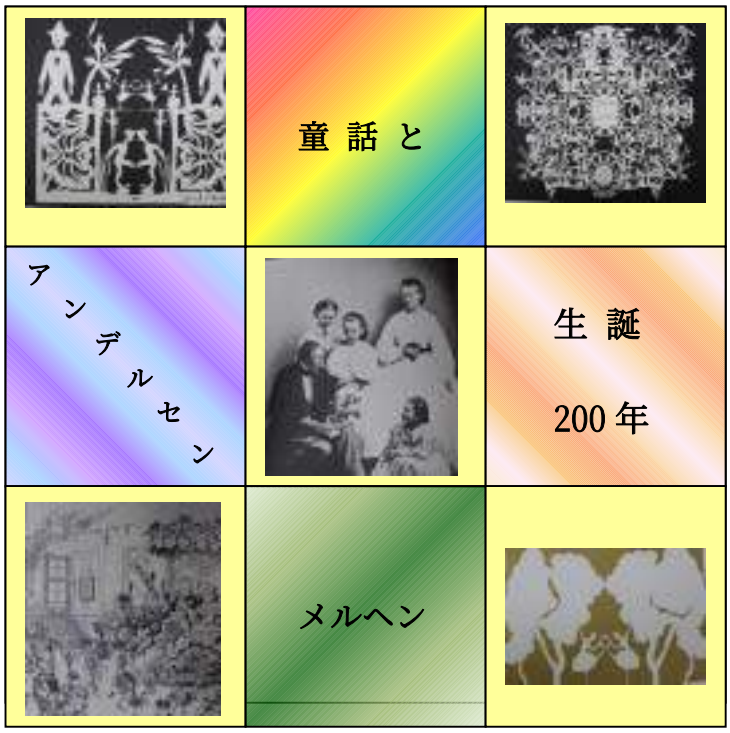
聖徳大学創立 15 周年・聖徳大学短期大学部創立 40 周年記念

「童話とメルヘンの世界
―アンデルセン生誕200年―」展



ISO9001

ISO14001

ごあいさつ

本年は、聖徳学園の創立 72 周年、聖徳大学短期大学部は 40 周年、聖徳大学は 15 周年を迎えました。

本学園は創立以来、建学の精神「和」に基づいて幼児教育を中心に、礼儀作法を身につける女性を育ててきました。そのための教材を世界諸国から収集し、それが本学園の貴重なコレクションとなっています。

このたび、大学・短期大学部の創立を記念して、これらのコレクションの中から、生誕 200 年に当たるデンマークの世界的に著名な童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの資料を初めて公開いたします。その中には、皆さんが親しんでおられる「みにくいあひるの子」「人魚姫」「雪の女王」などがあります。

アンデルセンは、苦難や絶望の中で深い孤独を味わい、何度も挫折し、それに耐えての生涯でした。その苦悩の中から生み出された童話であり、美しいメルヘンの奥には、厳しい人生の生き方が秘められています。「みにくいあひるの子」に例をとっても、純白できれいな成鳥になるには、多くの試練を経なければならないことを諭しており、子供がさまざまな困難を乗り越えることによって、立派な大人に成長することを願っての寓話となっております。

この機会に、世界中の人々から「童話の王様」と呼ばれ、愛されているアンデルセンの作品を、童話として楽しむだけではなく、人生の教訓としても読み取っていただければと願っております。

平成１７年７月７日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖　徳　大　学　学　長
聖徳大学短期大学部学長
学園長　川 並　弘 昭

アンデルセンについて

アンデルセンは、自伝で 「私の生涯は波乱に富んだ幸福な一生であった。それはさながら一篇の美しいメルヘンだった。」と語っているように、苦難に陥り、絶望や深い孤独の中で、何度も挫折し、それに耐えての生涯であった。精神的苦悩の中から発想した童話のため、美しいメルヘンの奥には、厳しい人生の生き方が秘められている。

「童話の王様」と呼ばれ、世界中の人々から愛され、その死に際しては国を挙げての葬儀となったアンデルセンは、まさにメルヘンのような一生であったといえる。アンデルセンの作品は、森鴎外が「即興詩人」を邦訳し、原作以上の評価を得た事でもよく知られているが、その作者名を知らなくても「みにくいあひるの子」「はだかの王様」「マッチ売りの少女」「おやゆび姫」「絵のない絵本」といった童話を知らない人は稀であろう。

生涯を通して 150 以上もの童話を書き続けており、世界中の人々から愛され、栄光に包まれたが、1875 年 8 月 4 日、コペンハーゲン郊外で 70 歳の生涯を閉じた。

アンデルセン肖像写真

子供に童話を読むアンデルセン

「新童話集　第 1 集」
1844（弘化元）年　初版本

「新童話集　第 2 巻」
1848（嘉永元）年　初版本

「童話集」1850（嘉永 3）年　初版本（右は人魚姫の挿絵）

「童話集」1900（明治 33）年
イーダちゃんの花の挿絵

切り絵コレクション

アンデルセンのスケッチブック　1972（昭和 47）年

アンデルセン生誕 200 年を記念して出版した絵本
2004（平成 16）年　小学館

「童話集」
1876－1880（明治 9－13）年

アンデルセンの年譜　1805（文化 2）～1875（明治 8）年

1805（文化 2）年（0 歳）	：	4 月 2 日、デンマークのオーデンセで生まれる。父は靴屋を営み、母は夫より 15 歳ほど年上の働き者であった。
1816（文化 13）年（11 歳）	：	４月に父が亡くなる。この頃、数多くの本を読む。文学に開眼し、稚拙ながらいろいろと習作を試みる。
1818（文政元）年（13 歳）	：	コペンハーゲンの王立劇場の一座がオーデンセに来て上演する。アンデルセンは臨時に駆り出されて牧童の役を演じたりして、舞台に興味を覚える。
1819（文政 2）年（14 歳）	：	4 月、母の反対を押し切り、王立劇場のあるコペンハーゲンへ行く。王立劇場で演じることを志願するが、最初は相手にされなかった。しかし、劇場附属の音楽学校校長シボーニの個人指導を受けられる事になる。ところが、半年ほどで声がつぶれたため、劇場附属のバレエ学校や合唱隊に籍を置いて時々舞台に出るようになる。
1828（文政 11）年（23 歳）	：	コペンハーゲン大学に入学する。在学中に劇場用の作品を書き、それが王立劇場で上演される。この頃より作家活動に入る。
1830（天保元）年（25 歳）	：	夏にユトランド半島とフューン島を旅行する。リボア・ヴォイクト嬢に出会い、熱烈な恋をするが、ほどなく失恋する。初めて**「詩集」**を出版。
1835（天保 6）年（30 歳）	：	「即興詩人」・「子供のための童話集」を出版。
1837（天保 8）年（32 歳）	：	童話「人魚姫」・「皇帝の新しい衣装（はだかの王様）」を刊行し、童話作家としての名声を高める。
1840（天保 11）年（35 歳）	：	**「絵のない絵本」**を出版。
1844（弘化元）年（39 歳）	：	ドイツへ旅行し、ワイマールの大公に招かれる。これ以降、各国の王侯から招待される事になり、童話を王や王子らに読み聞かせ、勲章を授かるようになる。帰国するとデンマーク王家に招かれる。「みにくいあひるの子・「天使」・「仲よし」・「ナイチンゲール」を収めた**「新童話集」**を出版。
1845（弘化 2）年（40 歳）	：	ドイツのベルリンに行き、グリム兄弟らと親交する。
1846（弘化 3）年（41 歳）	：	女優のイェンニイ・リンドに恋するが、失恋し、失意の中で各地を放浪する。小説**「ゲーア」**を出版。
1847（弘化 4）年（42 歳）	：	ドイツで刊行された全集のために自伝を書く。そのドイツ語版をもとにイギリスで英語版**「わが生涯の物語（自伝）」**を出版。
1848（嘉永元）年（43 歳）	：	「マッチ売りの少女」など６篇を収めた**「新童話集」**を出版。
1850（嘉永 3）年（45 歳）	：	ペーダーゼンの挿絵入りで**「童話集」**を出版。
1853（嘉永 6）年（48 歳）	：	親交のあったチャールズ・ディケンズ（「クリスマス・キャロル」の作者）のために**「詩人の空想」**をイギリスで出版。
1855（安政 2）年（50 歳）	：	デンマーク版の全集が数多く出るようになる。
1861（文久元）年（56 歳）	：	恩人ヨナス・コリンの死を旅の途中で知り、急いで帰国する。
1867（慶応 3）年（62 歳）	：	パリの万国博覧会に二度も出掛ける。その時の出来事をもとに童話「木の精ドリアーデ」を書く。デンマークの王室顧問官の称号を受ける。生誕地オーデンセ市の名誉市民になる。
1868（明治元）年（63 歳）	：	童話**「木の精ドリアーデ」**を出版。アムステルダム、パリ、ジュネーブなどを訪れる。
1870（明治 3）年（65 歳）	：	最後の長編**「幸運なペーア」**を出版する。
1875（明治 8）年（70 歳）	：	70 歳の誕生日が盛大に祝される。8 月 4 日コペンハーゲン郊外のメルキオール家の別荘で亡くなり、国葬をもって執り行われる。

＊**青字**は、展示中の資料を示す。

会　　期：平成１７年７月７日（木）～平成１７年１１月３０日（水）
午前９時～午後５時
（休館　毎日曜・祝日と学事日程による休業日）

会　　場：聖徳大学８号館　クリスタルホールギャラリー

会場への案内：ＪＲ・新京成線とも松戸駅下車、東口より徒歩５分

発行・お問い合わせ：聖徳大学川並記念図書館

Ｔｅｌ：047－365－1111（大代）